

ダルク女性ハウス

DARC Women's House



イラスト i

■子どもプログラム、その先へ—青年たちへの支援■

はるえ

母子支援をはじめて15年がたった。

ある日、プログラムに集まったメンバー10人全てに子どもがいると気付いた。子どもたちは施設にいたり、家族が育てていたり、父親に引き取られていたり様々だったが、手元で育てられている子どもが10人いた。本当に危なっかしく見えたし、その頃依存症の母親は母子分離をしないと治療は始まらないと言われていたから、不真面目に思われてもいた。でも、この人たちを母子分離して入寮させるとか、通所するとかの手続きをとっていたら、母子とも消えるんじゃないか、子どもがもっと危険な目に会うんじゃないかと思い、とりあえず母子とも抱えたまま支援をすることにした。その時、一緒にハウスを運営してくれていた山下富美子さんは中学校教員だったこともあり、一緒に勉強することや、食事すること、楽しむこと、学校や役所との交渉も全て担ってくれることになり、長い伴走の日々が始まった。

そして15年が経った。いまその支援から落ちがちな青年たちが、母親の元に転がり込むことが増えてきた。中学教育から落ち、早い時期に裏の仕事でなんとか生き延びてきた子たちだ。中学生を雇

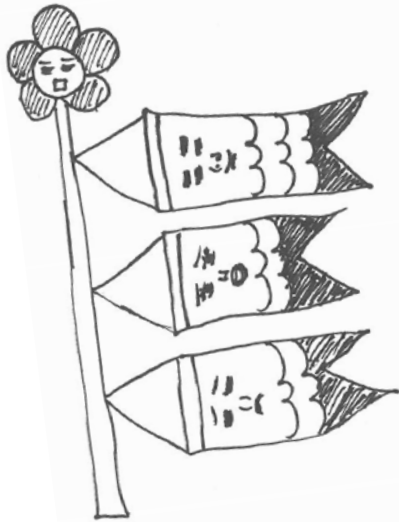


イラスト i

ってくれるところは、なぜか怪しいところが多く、表の仕事にならないまま、日銭で暮らし、友人宅を転々とし、少しずつ借金が増えていく。30万くらいの焦げ付きでブラックリストに載れば、携帯も借りられない、仕事がない月が3回続けばもう身動きできない。以前に女性メンバーで当事者研究をした時もそうだったが、困った時にいつでも帰れる住居がないだけで、20代の混乱は生まれ、経済的な困窮を引き起こし、悪循環をまねく。たった3日、泊まれるところがあるかないかで借金が生まれてしまう。

青年たちの走り出しの資金が足りない。行政につなぐまでの持ち出しが続いている。しかし名目はどこにもない。30代になると状況も解るようになり、再度教育の機会に繋がることもできる。

いま、切実に「子ども基金」が必要だ。

■薬をやめて1年■

しずか

依存症のしずかです。

今施設に入寮して1年が経ちました。

私は、覚せい剤と危険ドラッグに問題があり、19歳の時に1度逮捕された事があり、初めての留置場ですごく不安だったし、どうなるかわからなくて怖かったです。

でも、その時は起訴猶予になり20日で釈放されました。もう二度とこんな所には入りたくないと思い、薬を止めようと思いましたが無理でした。それから薬を使うのを止めることは出来ずに、また捕まるかもしれないと怯えながら過ごしていました。

そのうちに、『違法薬物だから捕まるんだ！じゃあ合法の薬を探して使おう！』と思う様になり危険ドラッグに手を出しました。危険ドラッグは覚醒剤よりも壊れていくスピードが速くて、使い始めてすぐに追跡妄想と被害妄想、幻聴、幻覚の症状が出ました。

この時初めて『やめたくても、やめられない』という渦に巻き込まれているのに気づきました。2年間使い続け最後は、コンビニの駐車場で暴れ公務執行妨害で警察に保護されて、そのまま精神病院の閉鎖病棟に措置入院することになりました。入院した先が依存症の病院ではなかったのですぐに退院になり、今度は親の目の届く所で監視されながら、使わない生活を送っていました。それも2年が限界で、また覚せい剤に手を出し去年の3月に逮捕されました。

でも今回は今までと違う展開になり、たくさんの偶然が重なり、1回目の逮捕の時も、精神病院に入院した時にも、繋がる事が出来なかった薬物依存症の施設、自助グループに繋がる事が出来ました。すごいハイパーパワーだなと今では思えますがその時はそんな風には到底思えませんでした。保釈後、留置所からハウスに行きなにもわからないまま入寮生活が始まりました。初めのうちは、『ここは自分の居場所じゃない、裁判が終わったらすぐ出ていくからそれまでの我慢だ。』と言い聞かせ、誰に何を言われても『大丈夫です！』しか言えませんでした。ミーティングで話す事も出来ないし、施設のスタッフにも自分の本当の気持ちを話さなくて本当にしんどかったです。

裁判が終わっても出ていかないでハウスに居ようと思ったのは、両親にもう迷惑かけられない、という罪悪感が1番強かったです。嫌々ながらもハウスで生活しているうちに、自分が今までここにいら

れたのには、たくさんの人達が手を差し伸べてくれていたことに最近気づくことが出来ました。

身元引受人になってくれた施設長、いつも気にかけてくれるスタッフ、いつも温かい仲間にはすごく感謝しています。1年間使わないでいれた事よりも、1年間女性の中で生活してこられたことに自分でも驚いています。

まだまだ自分と向き合うことは難しいけど、焦らずゆっくり仲間の中でやって行きたいと思っています。

■今年の桜で思うこと■

えいこ

退寮して10年がたち、結婚して子供が生まれ色々ありますが、幸せに生活しています。

毎月二泊三日で娘と二人で実家に泊まりに行きます。今年もいつもの様に両親が車で迎えに来てくれて実家へ遊びに行きました。ずっと天気が悪かったので、5才になる娘は「外で遊びたい」「どこか行きたい」とギャーギャー騒ぎ始めました。おじいちゃん（父）が「じゃあ行こっか～」と買い物ついでに桜の名所に連れて行ってくれました。実家の近くでとてもきれいなので、毎年両親と見に行っています。4～5キロ続く桜並木でとても素晴らしい所です。娘は「きれ～！」「すご～い！」の連発でした。私も、雨の日の桜もなかなか綺麗だな～と見物していました。すると、花の大好きな母が「ここに引っ越してからこの桜をきれいだと思えなかった」と。。。「でも、えいこがダルクに入寮してくれて、初めて綺麗と感じたんだ」と言っていました。ショックでした。自分が両親にしてきたことを考えると、返す言葉がなかったです。

私が薬物を覚えたのは17才の高校生の時でした。ダルクにつながった頃は34才になっていて、今はクリーンが11年になりました。考えると、両親には「ごめんなさい」と「感謝の気持ち」でいっぱいです。でも、家族関係が改善されたことで、薬物を使い迷惑をかけてたことを忘れてしまう時もあります。けど、今回、薬物を使用した17年間は決して短い期間ではなかったことを再認識する機会を与えてくれた今年の「桜」にありがとうと言いたいです。

もちろん、ありがとうは両親や桜に対してだけではなく、スタッフや仲間にも日々感じています。

クリーン10年を過ぎ、初めてフラッシュバックを経験しました。ささいな事がきっかけで、薬物への欲求が入りびっくりしたことがあります。スタッフへ相談すると「それがフラッシュバックだよ！」と拍手をし、笑顔で「おめでとう」と言ってくれました。ただ、笑顔の意味が分からず、とにかくミーティングで話すように言われ、話しました。すると、仲間に「私もあったよー！」とか共感してもらったり、他の仲間のフラッシュバックの経験談など真剣に聞くことができ「依存症って怖いんだー」とつくづく感じました。だからこそ、私はこれからもスタッフや仲間達と一緒に生きて行きたいです。



<B型日記>

★就労継続支援B型「Libre 工房」ですが、おかげさまで1年を迎えることができました。どんな作業ができるかな？何分くらいなら集中できるかな？得意な作業はなんだろう・・・毎日、みんなで考えながら、1年を過ごしてきた気がします。

地域のバザーに出店したり、東京都福祉局のセレクトショップ「kurumiru」に商品を置かせていただくことを通して、新しい出会いもたくさんありました。暖かく見守ってください、ありがとうございます。

3月からは、「kurumiru」伊勢丹立川店にもブックカバーを置いていただいています。こちらのお店は伊勢丹同様、土日祝日も営業していますので、お近くにおいでの際はぜひお立ち寄りください。

詳しくは下記ホームページで！

<http://kurumiru.metro.tokyo.jp/>

献金・献品ありがとうございました！ (2016.6~2016.11)

樹村みのり 風間早智子 石谷高子 鈴木幸子 阿蘇道子 宗形博子
静修会荒川寮 サワダケイコ 萌クリニック あねざきしょうこ 坂本実
相澤靖雄 山田恵美 川谷淑子 角田崇子 和田妙子 松井由美
黒川菜奈子 伊東いずみ 東京都共同募金 本田真知子 小宮葉月
堀内美加代 清水妙子 下田正枝 山添雅弘 大川さち子 鈴木幸子
匿名希望 (敬省略 順不同)

★今後ともよろしく願いたします。

- 一口 2,000円 (一口以上、何口でも可)
- 郵便振替口座 00140-2-591609
他金融機関からの振込用口座番号
店番(019) 当座 0591609
- NPO 法人ダルク女性ハウス

賛助会員募集

■編集後記■

ホームページでスライドショーをご覧いただけます。

<http://womensdarc.org/>

ちょっぴりでいいから、雰囲気を変えたいね・・・ということで、スライドショーを作りました。ぜひご覧になってくださいね。パンフレットのダウンロードもできます。

あ、ブログが去年のままだ・・・更新しなくては(汗)